



ニッポンの事業競争力を強くする！ 事業継続等の新たなマネジメントシステム規格とその活用等による事業競争力強化モデル事業

事業概要

各グループ概要

取組紹介

イベント

事務局通信

メディア掲載

report 2013/6/14: 岡山県産業振興財団
「晴れの国岡山」BCPブランド化を目指して



グループ担当
 コンサルタント
黒崎 繁雄

日 頃、お世話になっております。運営事務局の黒崎です。皆様の取組が所期の成果をあげるために、お手伝いをさせていただきたくよろしく願いいたします。

去 る6月14日に、岡山県のテクノサポート岡山にて、岡山県産業振興財団様のキックオフ会議に参加させていただきました。前日は岡山市で気温37℃を記録するなど暑さは続いておりましたが、当取組の中核企業4社トップおよび担当者、並びに瀬戸内市危機管理部、産業振興課、商工会、オブザーバーとして岡山県経営支援課を含む総勢20名の方が参集されました。山陽新聞の記者も長時間にわたって取材し、当取組に対する地域の関心の高さを強く印象づけられました。



当 グループの取組は、事業名称を「晴れの国岡山BCPブランド化による経営革新チャレンジ事業」と称し、

1. BCPモデル自治体である瀬戸内市のBCP策定/BCMS体制構築への協力と連携
2. 社会インフラを支える地域建設業の経営革新と連動したBCP策定/BCMS体制構築
3. 地域個社のBCP啓蒙

等の事業を通して、岡山を災害・危機対応能力の高い県として「岡山BCPブランド化」の強化を推進し、阪神・四国経済圏のバックアップ拠点としての広域連携の道筋をつけていこうとするものです。

冒 頭で岡山県産業振興財団の岡本専務理事より、「BCP策定の為にこの規模で関係部署が参集するのは県始まって以来であり、一丸となって推進し何としても所期の成果をあげたい」との力強いご挨拶で始まりました。

続 いて、同財団福原BCP推進マネージャーより、事業概要の説明があり「個々の企業BCPと広域連携BCPIは非連続であり、今回の取組で一丸となって是非チャレンジしたい」との熱い思いを語られました。

担 当コンサルタントから具体的な進め方の説明の後、質疑応答に入りましたが、驚くほど活発な議論となりました。

営革新と連動した事業継続計画」策定には危機感が必須、「自治体と地域企業連携」には危機感の共有が必要となるテーマをきっかけに、皆さんが本音の議論をされました。自由討議ではありましたが、チャレンジすべき本質的な課題がほとんど網羅されていたと思います。伺っていて、この取組の道筋は決して平坦ではないこと、ここに参集した皆さんなら困難なテーマも乗り越えていけるとの確信を得た次第です。



「経最 後に参加各組織の責任者より「決意表明」がありましたが、瀬戸内市危機管理部長坪井様より「市のBCPは2、3年でまとめる予定であり、災害時の行政機能の継続には地域企業との連携が必須であり、この取組に期待している」とのお話があり閉会となりました。

自 治体と地域企業連携BCP、広域連携BCPIは昨今の喫緊のテーマのひとつと考えておりますが、今回の岡山の取組がモデルとして多くの関係者の参考になる事を確信しております。

